

徳島工業短期大学研究倫理規程

教授会制定 平成 27 年 10 月 10 日

(目的)

第 1 条 本学の学術研究の信頼性と公正性を確保し、研究活動中の基本的な倫理指針を定めることを目的とする。

(対象)

第 2 条 「研究者」とは、本学に所属する教育職員の他、本学で研究活動に従事するすべての者を指し、学生も研究活動に従事するときは、研究者に準ずるものとする。

(大学の責務)

第 3 条 本学は、研究倫理にかかわる意識を高め、研究活動に係る不正行為及び研究費の取扱いにおける不正行為を防止するため、研究活動及び研究費の適切な管理等について必要な措置を講じる。

2 本学は、研究活動に不適切な行為が認められた場合は、速やかに原因の究明と適切な措置を講じ、学内外への説明責任を果たす。

(研究者の責務)

第 4 条 研究者は、研究活動のあらゆる局面において、捏造、改ざん、盗用などの不正行為を行わないこと、加担しないことはもとより、研究、調査データの記録保存や適切な取扱を徹底し、不正行為の発生を未然に防止するよう研究環境の整備に努める。

2 研究者は、研究の実施、研究費の使用にあたっては、研究の助成目的等を最大限に尊重するとともに、本学規則及び研究費ごとに定められた条件や使用ルール等を遵守する。

3 研究者は、研究や知的財産権に関する契約を締結する際は、本学が定める手順に則り行い、契約書に定められた内容を遵守するとともに、知り得た情報で守秘義務が発生する場合は、これを遵守する。

4 研究者は、研究成果の公表について、データや論拠の信頼性の確保に向けて十分留意するとともに、他の研究者の研究成果やオリジナリディーを尊重して公正かつ適正な引用を行うことを基本姿勢とする。また、学術論文等の発表に際しては、オーサーシップや既に発表されている関連データの利用や著作権等について、各研究組織、研究分野、学術誌ごとにある固有の慣例やルールに則って細心の注意を払い、著者全員の十分な了解のもとに行うものとする。

5 研究者は、他者の研究論文の査読や審査にあたる場合には、審査対象者の属性や審査対象者との関係等によって不当な評価を行うことなく、学問的な基準や当該審査の審査基準に基づいて、公正に審査を行う。

6 研究者は、研究実施上、環境・安全に対して有害となる可能性のあるもの（放射線、放射性同位元素、遺伝子組換え生物、外来生物、核燃料物質、劇毒物、環境汚染物質等）を取り扱う場合には、関連する法令、関連省庁や学会等の指針等を遵守し、必要に応じて学内外の委員会で承認を受けるとともに、特に、人や動物を対象とした研究においては生命倫理を最大限に尊重する。

7 研究者は、研究活動のあらゆる局面において、各個人の人格と自由を尊重し、属性や思想、信条による差別は行わない。また、研究上優位な立場や権限を利用して、その指示、指導等を受ける者に不利益を与えるような言動をとらない。

- 8 研究者は、研究の過程で入手した他者の個人情報の保護に努め、本学規則に基づき適正な取扱いを行うものとする。
- 9 研究者は、自らの研究活動にあたって、利益相反や責務相反の発生に十分な注意を払い、かかる状況が発生する場合には、情報公開を行い、適正なマネジメントを行うものとする。

附 則

この規程は、平成 27 年 10 月 10 日から施行する。

第4条の内容は下記を示す

- 1：学術研究における不正行為の防止
- 2：研究費の適切な使用
- 3：契約の遵守、守秘義務
- 4：研究成果の適切な発表、オーサーシップ
- 5：審査の公正性
- 6：環境・安全への配慮、生命倫理の尊重
- 7：差別、ハラスメントの排除
- 8：個人情報の保護
- 9：利益相反の適性のマネジメント